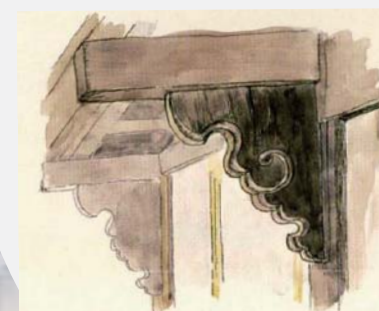


参考文献

『岩村城下町伝統的建造物群保存対策調査報告書』 平成元年
調査編集 豊橋技術科学大学工学部小野木研究所
『岩村町岩村本通り伝統的建造物群保存地区』
『いわむら散策絵図』 恵那市教育委員会
『京都町家資料館』 京都新聞



恵那市教育委員会

編集：NPO 法人 いわむら でんでんけん

平成 23 年 3 月発行

重要伝統的建造物群保存地区
恵那市岩村町本通り
伝統的建造物群保存地区

はじめに

岐阜県東部に位置する恵那市岩村町は、平成10年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されて以来、住民の皆さん、建築専門関係者の方並びに行政が協力し、後世に引き継ぐべく歴史的、文化的価値のある町並みの保存を進めてまいりました。

このデザインガイドは今後の町並み保存を進めていく上で指針となるよう、NPO 法人いわむらでんでんけんが中心となり技術者の立場で製作しました。

このデザインガイドが今後の町並み保存の一助になれば誠に幸いに思います。

デザインガイドの趣旨

町家はひとつひとつの町家が伝統工法の優れた技術の集まりであると同時に、それぞれが連なり、向き合うことで、奥行きのある岩村の町並みをつくり上げてきました。

隣りあって住むなかで培われた作法、四季を愛でる工夫や年中行事、そのような町の生活と文化を継承する受け皿が町家です。岩村の町並みの特徴を、住民のみならず今後修理、修景の設計や工事に携わる方々に理解していただき、今後の町並み保存の指針となることを目的としました。

目次

1	はじめに	デザインガイドの趣旨	8	外壁
2	町家の構成		9	建具
3	岩村の町並み	岩村の町家の特徴	10	手摺
4	地区による特徴		11	格子
5	屋根		12	まちを彩る小道具
6	〃		13	町並みの保存
7	外壁		14	手続きの流れ

町家って

町割りを下敷きに中世、近世を経て洗練と完成を見た伝統的な都市住宅が町家と呼ばれています。

岩村の町家は緩やかな勾配の通りに面して家が建ち並び、間口が狭く奥行きの深いつくりが特徴です。間口が狭いぶん「通り」に面した家や店が多くなるので、町全体が栄えることにつながります。

「マチャ」という呼び方は平安時代末期にまとめられた書物に既に登場しますが、その形は簡単な小屋のようなものだったようです。

現在の町家の原形が確立されたのは、江戸時代中期のことです。岩村に現存する町家には江戸時代に建てられた築 150 年以上のものもあり、当時の様子をしのぶことができます。



町家の構成

店（見世）

町家の外観を引き締めるのが表格子。通風や採光の機能に加えて外からは家の中は見えにくく、室内から外はよく見えるというブラインドの役目も果たしています。さらによく見ればさまざまな種類がありその形や様式は、たいていの場合、米屋は米屋格子、炭屋は炭屋格子…というように、その家の職業を表現していました。出格子は、文字どおり格子が外壁面から張り出してついているかたちのものです。

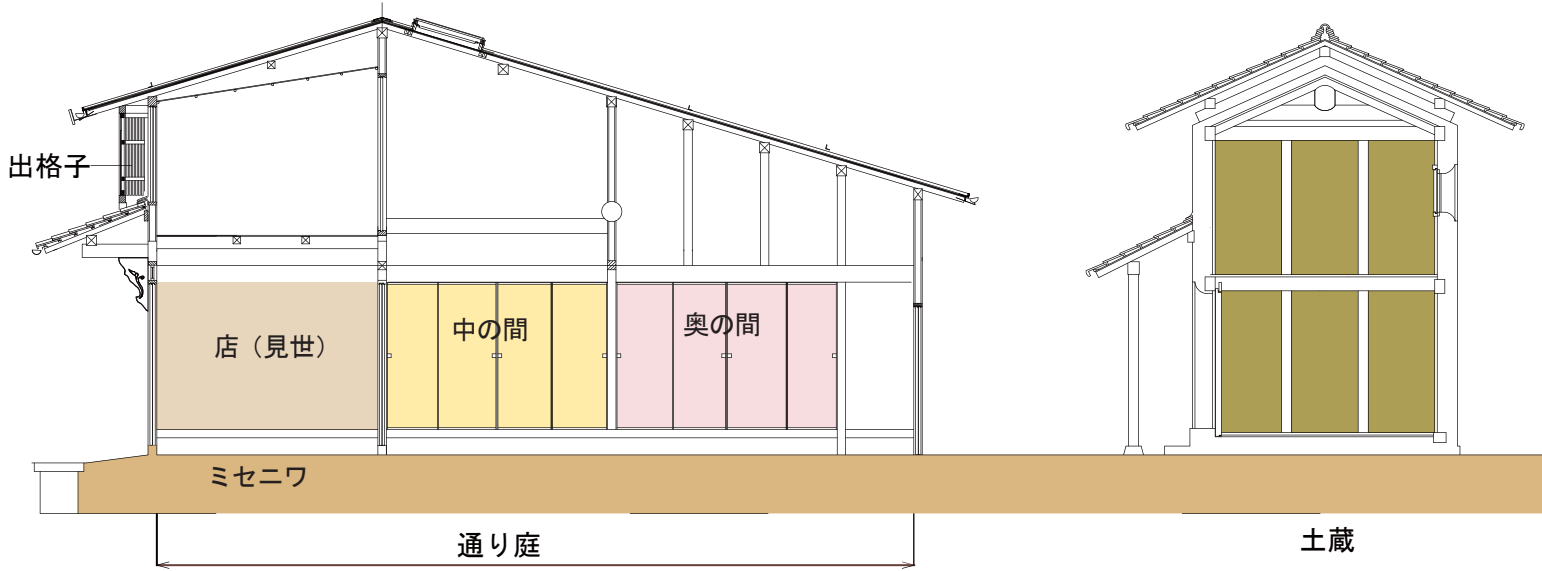
奥の間

町家のいちばん奥に位置する部屋で、座敷ともいいます。主人が大切なお客さまをもてなす部屋として使う最も格式のある空間です。それだけに、住人とその意に通じた職人のこだわりが託される場所。住人の好みに合わせた素材や様式によって床の間などがしつらえられます。欄間の飾り、襖の引き戸、書院の障子棧などのディテールにわたり、各家の磨かれた美意識が伺えます。

土蔵

通り庭を抜けた中庭に建ち、米蔵、衣装蔵、味噌蔵等、収納するものにより、呼び名は様々です。屋根は切妻の置屋根になっており、全体が厚い土壁で囲まれた土蔵は燃えにくく、大事なものを収納したり、火災の際には延焼防止の役割を果たします。

壁の仕上げは漆喰塗り、海鼠壁、鯔子下見板等があり、火災の際、類焼を防ぐため、鯔子下見板は折れ釘で止められ、土蔵から取り外すことができるようにしたものもあります。



通り庭

建物内のメイン通路になる通り庭は、町家建築の象徴といえます。表から奥まで土間が貫かれているため、働く人は行き来にいちいち靴を脱ぐ必要がなく、そのまま台所や奥に荷物を運び込むことができました。また、東西向きの家にあってはその南側寄り、北向きの家にあっては東側寄りに設けられるなど、採光を考慮して設けられていました。

表からミセニワ、玄関庭、ウチニワと呼ばれ、それぞれ使われ方が違います。なかでも生活空間に位置するウチニワは、今でいうキッチンであり、働く人の食事の場。いわば家事のサービス空間として使用されてきました。「おくどさん」と呼ばれるかまどが据えられ、内井戸が備えつけられているところもあります。入口には、くぐり戸付きの大引き戸があり、夏は引き戸が開け放たれて、麻のれんや縄のれんがかけられ、風の通り道となります。

ミセニワ

土間である「通り庭」は表の道路から奥の庭まで建物を貫いていますが、道路から入ってすぐのところを「ミセニワ」、その奥を「ウチニワ（走り庭）」と呼んでいます。

ミセニワは表向きの接客の空間です。

ウチニワはミセニワの奥にある私的な空間で、「とおりにわ」は「庭」というくらいなので、家の内部でありながら外部空間的な機能があり、また天井がなく、小屋組があらわしになっていることが多い空間です。

注)「呼び名」は、地方により異なります。

岩村の町並み



緩い坂道にそった軒先のそろう町並み

現在の岩村の町並みは 17 世紀以降のものです。

町の中を流れる岩村川を挟んで、北側に武家町、南側に町人町が作られました。武家町に現存する武家屋敷はわずかですが、町人町には旧家がよく残っています。屋根は通りに面し※平入りとするのがほとんどで、壁面は隣家にならって通りより控えて建てられているのが一般的な形式です。通りは坂道の傾斜に沿って軒先の高さがそろった、美しい町並みを形づくっています。

※**平入り**

屋根の棟と平行な面に出入り口があるもの。

岩村の町家の特徴

岩村の町家の主屋はいずれも通り庭式の町家型の平入り、二階建て、棧瓦葺もしくは鉄板葺きです。車の通行をしやすくする為に一階の軒が切られていることも特徴の一つです。

外形上の特徴は深い軒を支える出桁構造で、腕木下に繰型付き持送りを付けているものもあります。また、一階軒先に幕板を付けたものもあります。比較的軒の低い「厨子二階」と言われる造りが多く、江戸時代の主屋では、元来表側にだけ二階が設けられていました。明治に入ると裏側にも二階を設けるようになり、明治 30 年代になると総二階建が現われるようになりました。在来の板葺石置屋根のときには、屋根下地は竹下地でした。岐阜県屋上制限規制（大正 10 年施行）に伴う屋根の改造により、本町通りの町家の多くは、前面および背面の軒高を上げ、※柱間装置も改めたものも多くあります。江戸時代の柱間装置は、一階では、入口は大戸、ミセ・オクミセ・シモミセ部分は藪で、二階の窓には出格子もしくは平格子を付けるのが一般的でした。明治期に入ると一階のミセやオクミセ部分に出格子を付けたり、入口部分は引違戸に改められるほか、店舗ではショーウィンドウを付けたり、全面ガラス戸に改変することが多くなり、町中で現在も数多く見ることができます。

配置、平面形状は、間口が狭く南北に細い敷地割りが多く、奥行き深い一列四間型や二列八間型やそれらの変形が多いのが岩村町家の特徴といえます。

使われている材料は柱などに使われている木材は桧がほとんどで、この地方の特徴をよく表しているといえます。栗材もよく使われています、土壌が栗の育成に適しており、庭によく植えられていたことが影響したと思われます。

岩村の本通りは商人町ということもあり土壁が多く使われています。左官技術もすぐれたものがあり、土蔵などでは、漆喰の鰻絵などもみることができます。

ショーウィンドウ、腰壁などに使われているタイルは、多治見市笠原産のタイルが使用され、外観上の重要なワンポイントになっています。

※**柱間装置**（はしらまそうち） 建物の側廻りなどの柱の間に設けられた建具や窓などをいう。



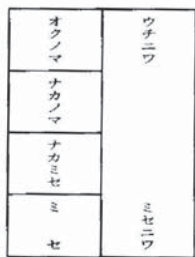
深い軒の出桁造り



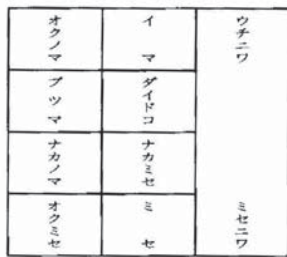
竹の屋根下地



一列三間型



一列四間型



二列八間型

代表的な平面型



タイルを使用したショーウィンドウ



板葺き屋根

地区による特徴

本町の町家

本町地区は江戸時代には城下町の町人町があった場所です。主屋のうち約 4 分の 1 は江戸時代の建築物です。敷地のほとんどが東西にのびる通りに面して 4 ～ 5 間の間口で区画され南北に長い地割になっています。 建築物は連坦して建っており、そのほとんどが平入りで、厨子二階建及び二階建を基本としています。これらの町家の平面は通り庭のある一列三間、一列四間を基本とするものが多く、ドマミセをもっていたとみられるものも少なくありません。敷地内には中庭を設け、奥に離れ座敷や土蔵などがあるものが多くみられます。

江戸時代の町家は板葺石置き屋根で（勾配は 2 寸 8 分から 3 寸程度）、大正 10 年施行の岐阜県屋上制限規制以降に瓦葺きや鉄板葺きに改められました。現在鉄板葺きの屋根は昔ながらの勾配を保っており、瓦葺きのものは、棟高を上げ勾配を変更したものです。表の柱間がガラス窓等に変わっているものが多く、当時の痕跡から以前の姿を想像することができます。



本町二丁目



本町三丁目



本町四丁目



本町五丁目

柳町の町家



柳町

柳町地区は東西方向にのびる本通りに対し、桁形から南側にのびる南北方向の通りです。

柳町には江戸時代には足軽長屋があり、その南端には、県史跡の一条信能終焉跡があり岩村神社として祀られています。現在の町並みは明治から大正時代の建物からなり、10 軒が棟続きで作られた町家もあります。

新町の町家



新町一丁目

旧態をとどめた専用住宅が多く落ち着いた雰囲気がある。

西町の町家



西町一丁目

岩村町の商業の中心地として栄えた。

西町地区は江戸時代後期から形成された東側と、明治時代末から形成された西側からなり、当初から異なる時代の建物が混在しています。

地割は、裏通りで区画されるため奥行きが短くなっています。建築物の多くは明治以降に建てられ、木造 2 階建瓦葺きのものが多くなっています。

西町は商店街を形成しており通りに面した一階部分の外観は店舗化に伴う改造が進んでいますが、2 階部分は看板、鉄板などの裏に隠れていますが、伝統的な形態も残っており、新しい形態と混在してみられます。

つし（厨子）

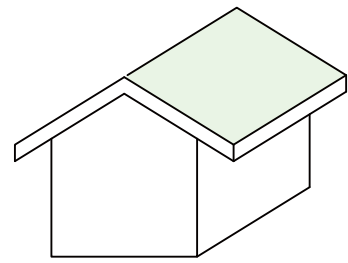
民家の屋根裏。草葺・板葺・瓦葺のいかにかわらず用いられ、窓を持つ場合も持たない場合もある。床は、棧を渡し筵（むしろ）を敷いただけのものから板張りのものまである。物置、蚕室、使用人の寝間などに用いられた。

屋 根

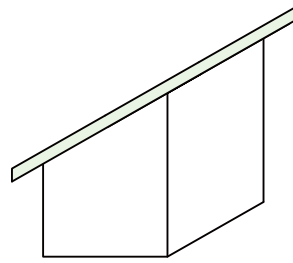
建築物の上方で建物を覆う部分のことで、雨や雪、風を防ぎ、日射を遮るものです。

建物のデザインや地域性、気候に合わせてさまざまな形状があり、代表的なものとして次のようなものがあります。

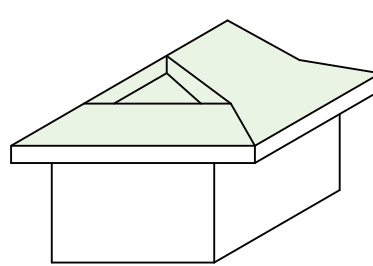
- (1) 切妻（きりづま）・・・本を開いて伏せたような形をしている屋根で、岩村で最も代表的な屋根形式。2方向へ雨水が流れるシンプルな形のため、建築費も安くすむ。
- (2) 片流れ（かたながれ）・・・1方向だけに勾配のある最も単純な形の屋根。比較的規模の小さな山荘や付属棟の屋根、物置などに見られる。
- (3) 入母屋（いりもや）・・・上部が「切妻屋根」、下部が「寄棟屋根」のようにになっている屋根。
- (4) 寄棟（よせむね）・・・4方向の勾配で構成される屋根。切妻屋根のような妻側の壁がないため端正な外観となる。



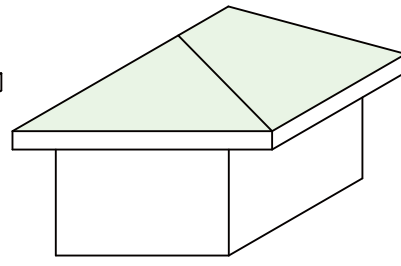
切妻屋根



片流れ屋根



入母屋屋根



寄棟屋根

調和のとれた美しい屋根



本通りに沿って、切妻平入りの特徴を残した町並み（奥行きが深い為採光を確保する為の天窗を設けた屋根もみられる。）



板葺きの屋根をトタン葺きにし、コールタール塗とした屋根が残る町並み

屋根がまちなみ景観形成に与える要因として屋根の形状以外に、屋根勾配、素材、色などが景観に影響する。いわむらの町家は、ほとんどが切妻形式で建てられ瓦、金属葺きの建物が多い。



輪違い棟瓦



カラ-鋼板瓦棒葺きと雪止め



雪止め鼻隠し



瓦葺き庇（巴付唐草（京花）軒瓦）

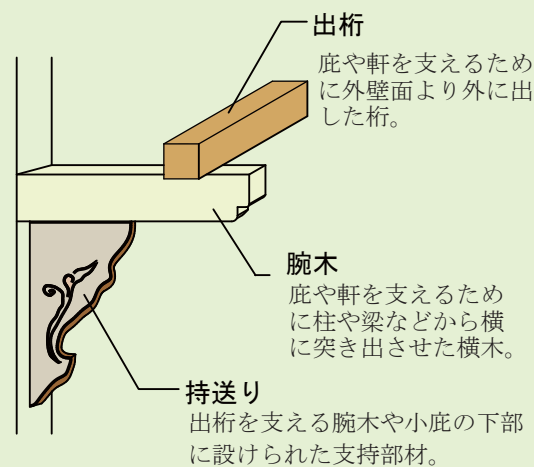


瓦葺き庇（鎌唐草軒瓦）



のし瓦漆喰とめ

出桁造り その1



色々な種類の持送り



板に彫刻



板に彫刻



鋳物製



鉄パイプ

出桁造り その2

せがい

船桡（せがい）造

側柱上部から腕木を出して軒下に、舟の船桡に似た小天井を張ったもの。出桁造りの軒の納め方の一種。

色々な種類の船桡



天井張り型



天井張り型



先彫刻型



出格子受け型



角型

外 壁

外壁は人の目につきやすい部分で、町並みを考える上で大切な要素です。

自然の猛威から人を守り、防音、プライバシーなど外部からの侵入を防ぐ機能をもっています。紫外線、天候、ほこりに晒され耐久性も要求されます。材料が限られた時代は板、壁土など周辺で入手可能な自然材料で造られていました。外壁の素材を選ぶときは、周囲との調和に配慮し、落ち着いた色調を選択する必要があります。

岩村の町並みには大きくわけて次のような壁形式と壁材がみられます。



壁形式

真壁・・・構造躯体としてつくられた柱軸組がそのまま化粧材として表面に露出する壁のつくり。

大壁・・・柱などが壁面の外に出ることがないように、覆い隠すようにした壁のつくり。



真壁形式



大壁形式

壁 材

板張・・・板を縦に張った縦羽目板張りや、下から少しずつ重ね張った下見板張りなどが見られる。



ささらこ
簾子下見板張り



縦羽目板張り



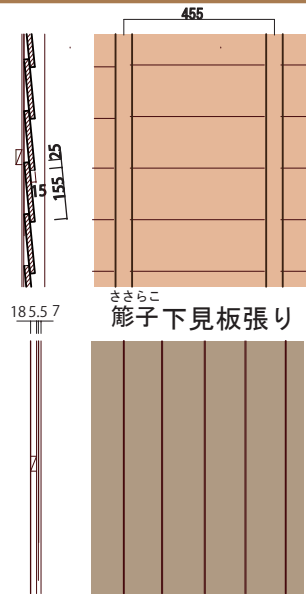
横羽目板張り



押縁下見板張り



横羽目板張り



ささらこ
簾子下見板張り

縦羽目板張り

(実 測 図)

岩村には数少ない洋風建築



通りに面した外壁を※看板建築としモルタル仕上げにして洋風にした。



外壁仕上に波板鉄板を使用しどこかなつかしさを感じさせる。

※看板建築

大正期から昭和初期に建てられた都市内の木造商店建築で、正面を1枚の板のように建ち上げて、鋼板貼りなどにした2～3階建てのスタイルです。江戸時代の町家が総2階になって、その前面を看板のように仕上げたことからこう称され、建築史家・藤森照信の命名です。

壁 材

土 壁・・・土を使用した左官仕上げの壁の総称。

白漆喰塗・・・消石灰、砂、のり、すさを主材料として、顔料をまぜずに仕上げた白い壁。

黒漆喰塗・・・漆喰に黒色顔料を配合して仕上げた黒い壁。

真壁形式土壁（黄大津）



大壁形式白漆喰壁



虫籠窓 むしこまど
虫かごのように目の細かい格子を入れた窓。
近畿地方の町家な窓に多くみられる



真壁形式土壁



真壁形式白漆喰壁



真壁形式黒漆喰壁



真壁形式白漆喰壁

壁 材

モルタル金罎仕上・・・金罎（かなごて）で強く押えて手早く仕上げるベーシックな工法でプラスターや石粉等を配合すると表面が平滑に仕上がる。

モルタル刷毛引き仕上・・・中粒子の砂をモルタルに混練（こんね）りし、塗り付け後、刷毛（はけ）を引いて仕上げる工法。住宅の外壁や基礎部分に多く用いられています。

モルタルドイツ壁仕上・・・モルタルをササラなどではき付けて表面に定着させて仕上げる工法で、重厚な質感を表現できます。別名「はけ付け」とも言います。

人造石洗出し仕上・・・種石とセメント・石灰を混練りしたものを塗り付け、表面を水で洗い出して仕上げる工法。品格の高い仕上がりからも高級な建築に適した工法です。



モルタル刷毛引き仕上



モルタルドイツ壁仕上



人造石洗出し仕上



金属板張り仕上
タイルを模した鋼板仕上

モルタル

砂（細骨材）とセメントと水とを練り混ぜて作る建築材料で、セメントと砂とは重量比にして1:2 - 1:3の割合で混合されることが多い。ペースト状で施工性が良く、仕上材や目地材、躯体の調整などに多く用いられる。

壁 材

金属板張・・・鉄などの金属板を張ったもの。軽量で、施工性に優れています。耐久性、耐候性、コストパフォーマンスが良いことから、普及していますが岩村ではあまりつかわれていません。

建物を飾る



腰部分に石を使用。



モザイクタイルを使った腰壁。タイルを使うことにより壁を保護する。



2階外壁の一部に仕上げにモルタル串引きを使用。



路地にあるなまこ壁

建 具

建具（たてぐ）は、建築物の開口部に設けられる開閉機能を持つ仕切り。

おもに壁（外周壁や間仕切壁）の開口部に取り付けられて扉や窓として用いられることが多い。用途は、出入口、通風口、採光、遮音、防犯など多岐にわたり、それぞれさまざまなタイプの建具が用いられています。



ガラス戸は、全体的に腰板付のものがみられ、上部のガラスの棧のデザインは窓に類似する。年代の新しいものほどガラスが大きくなる傾向がある。



新町では上の写真のように、下框までガラスの嵌められた建具がみられます。



木製ガラス戸



木製ガラス戸



木製ガラス戸



木製ガラス窓



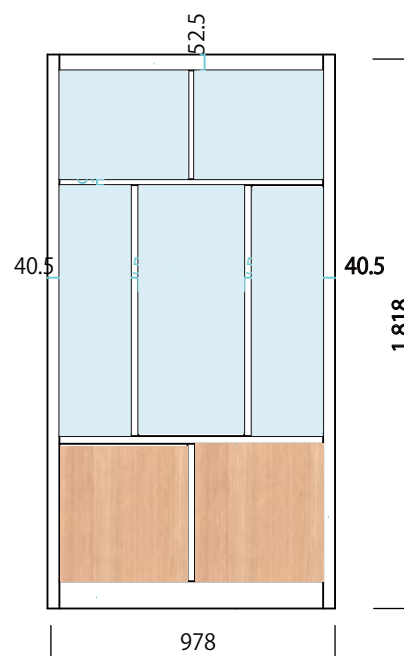
木製ガラス窓



木製ガラス窓



木製ガラス窓



(実 測 図)

上の写真は地区内に多く見られる窓のデザインです。さまざまな種類のバリエーションがみられます。

手 摺

手摺（てすり）は、橋や階段、屋上やベランダ、壁面、窓、廊下等に取り付けて人の落下を防いだり行動の補助に使用される柵状、または横木状のものです。

狭義には柵上の欄干などの上に渡した手でつかむ横木（笠木と言う）のことですが、柵状のもの（手すり子と言う）も含めて構造全体をいう場合もあります。

木材、竹、金属、石材などの材料で作られています。



手摺は本町に多く、昔旅籠を営んでいた建物に多くみられる。



木製手摺



木製手摺



木製手摺



木製手摺



木製手摺



木製手摺



木製手摺

ショーウィンドウ 飾り窓



壁の一部に御影石を用い重厚な面持ちを演出



壁の一部にモザイクタイルを張ったこだわりのショーウィンドウ

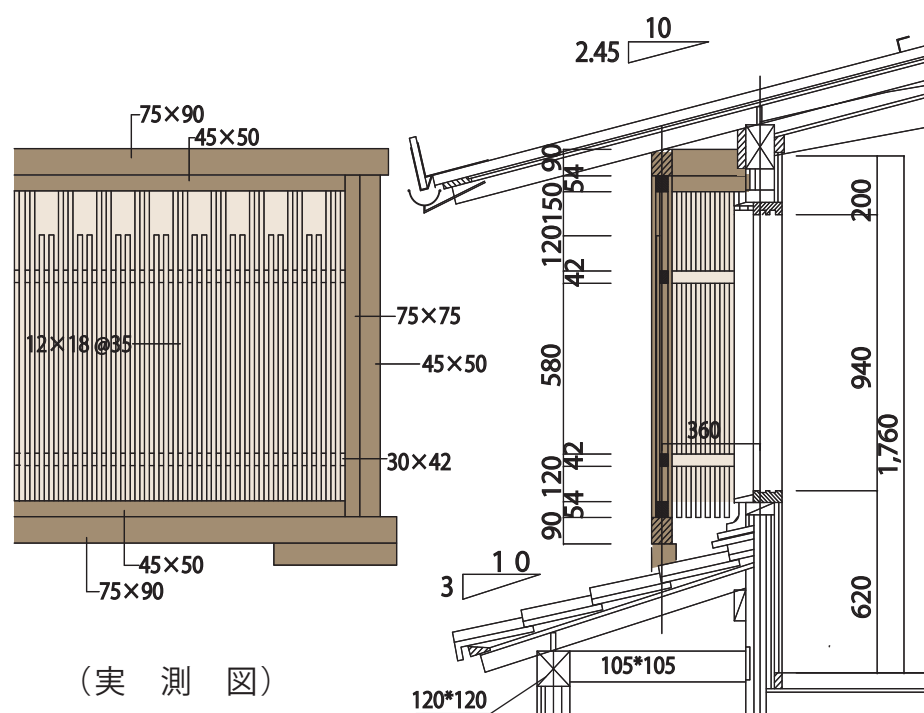


格 子



格子は、角材を縦横の格子状に組み上げた建具。中間に補強用の水平材が入らずに、角材を縦方向に並べたものも格子と言うが、厳密には連子という。窓先に取りついたり、引き戸や扉に戸板の代わりにこれを用いた格子戸などがある。装飾的な効果もあるため欄間や襖、障子等の内部建具にも付けられた。いずれの場合も建物の採光側に用い、内部での採光と通風を確保しつつ、外部からの侵入と視界を制限できる効果がある。

大名屋敷や陣屋、城郭などではその効果を利用して物見用の出窓に格子を付ける(出格子)ことがあり、城郭の場合には敵の侵入などを防ぐためにほぼ全ての窓を太い角材で造られた格子とすることが多かった。



格子は江戸時代からの建物が残る本町に多くみられます。特別な装飾はなく、格子上部は長さの異なる縦棧が2本ずつ※小間返しに組まれています。

※小間返し (こまがえし)
細長い部材を連続的に並べるときに、見付け寸法と同じ長さの間隔をあけて並べること。

まちを彩る小道具

屋根上看板



明治時代からの看板



屋根を設けた看板



軒先を飾る下り掛



土台下に御影石の
自然石を用いている



仕上げの見切り



看板を兼ねた吊り灯籠



武者窓

武家屋敷の表長屋の外側に設けた堅格子のある窓で、屋敷を警固するため、外の様子をうかがう目的でつくられたもの。



下り掛

1階軒裏に設けられた幕板暖簾や簾を掛けるのに利用された。

継手・仕口



継 手

木造建築の柱や梁などに用いられる部材と部材との継ぎ目、または、継ぐ方法のこと。部材を長さ方向に結合する場合に継ぎ手という。材の寸法を増すために使用し、部位や用途で使い分けるため、さまざまな形状があり、継ぎ手に用いられる基本形は構造部分に対して、突付継ぎ、蟻継ぎ、そぎ継ぎなどがある。釘やボルトなどの金物を使用しない。

柱



土台



柱

町並みの保存

保存地区内の建造物は、長い年月の風雨に晒され、雨漏りがしたり、壁が傷んだりしてきています。また、生活スタイルの変化や新しい建築材料の登場もあり、昔の伝統的な建造物の外観が少しずつ変化してきています。

この個々の建造物のわずかな変化が、岩村町本通りの町並み全体を大きく変えてしまうことにつながってしまいます。

この岩村町本通りの伝統的な町並みを住民のみなさんと一緒に守り、後世に伝えていくために、いくつかのルールと助成制度が定められています。

現状変更行為の許可

保存地区内で行われる建築行為（増改築、修理、解体など）が町並みを大きく変えてしまうことにならないように、その計画をあらかじめ教育委員会に申請していただく必要があります。

看板の設置、エアコン室外機等の設備機器の設置のほか、土地の造成のように直接建物を触らないような行為についても、申請が必要な場合があります。

助成制度について

保存地区内の建築行為で、建造物の外観を一定の基準に基づいて整備する場合、予算の範囲内で補助金が交付されます。

昭和戦前以前の建造物で、今後も保存していくことに所有者から同意をいただいているものを「伝統的建造物」としています。

伝統的建造物に対して行う工事を「修理」、その他の建造物に対して行う工事を「修景」と呼んでいます。

修理と修景では、補助金の額や基準が異なります。

また、主屋・土蔵、付属屋によっても補助金の額が異なります。

主屋の場合	修理	修景
対象となる建造物	伝統的建造物 (所有者の同意を得た建物)	伝統的建造物以外の建物
補助金	事業にかかる費用の 80% (上限 600 万円)	事業にかかる費用の 60% (上限 400 万円)
交付基準	原則、痕跡を調査し、 復原 する。 既存の部材をできる限り保存活用する。	周囲の伝統的建造物と調和の 取れた外観とする。

修理の実例

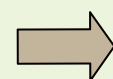
伝統的建造物を古写真に基づき復原**修理**をした建物です。



修理前



古写真



修理後

手続きの流れ

・・・住民の方の手続き

工事の計画

文化課と相談しながら、計画を決定します。



現状変更許可申請書の提出

この手続きは、市の補助を受ける・受けないに関係なく保存地区内で建築行為を行う場合、必要となります。



許可書の交付



補助金交付申請書の提出



交付決定通知書の交付



工事の着工



工事の竣工

特に伝統的建造物の修理の場合、必ずしも工事が当初の計画通り進むとは限りません。部材の痕跡等により、計画が変更になることもあります。その場合、計画変更の申請が必要になります。



実績報告の提出



完成検査



補助金確定通知書の交付



請求書の提出



補助金の交付

この助成制度は、伝建地区内の建造物が「文化財」という国民の財産でもある側面を併せ持っていることから行われています。一般的な住宅のリフォーム等とは異なる意味があることをご理解下さい。

また、工事の完了が保存修理事業の完了ではなく、工事後の建造物を適切に維持管理し、良好な状態で後世に伝えていくことがこの助成制度の目的です。岩村町本通り伝建地区の町並み保存は、住民の方と行政が協力して取り組むことで成り立っています。

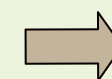
この歴史ある岩村の町並みを保存しつつ、住民の方がこのまちに誇りを持って住み続けていけるよう、保存修理事業を進めていく事が大切です。

修景の実例

伝統的建造物との調和を考慮し**修景**をした建物です。



修景前



修景後